

を打ち出した。1988年7月12日、カナダ下院は法案C-93、An Act for the Preservation and Enhancement of Multiculturalism in Canadaを可決したが、そこには以下のような文章がある。

「カナダ政府は、人種、民族的出自、皮膚の色そして宗教に関するカナダ人の多様性をカナダ社会の基本的な特徴とみなし、カナダの経済的、社会的、文化的そして政治的生活領域におけるすべてのカナダ人の平等達成に努力するとともに、カナダ人の多文化的な遺産を維持し向上させるための多文化主義政策を推進することを約束する。」

トルドーは、かつて次のように述べていた。

The nation is, in fact, the guardian of certain very positive qualities: a cultural heritage, common traditions, a community awareness, historical continuity, a set of mores; all of which, at this juncture in history, go to make a man what he is. (Trudeau, 1968: 177)

かれは、ある種の民族的「個」の確立をカナダ国家の礎石にしようとしたのであった。

しかし、多民族・多文化社会は、もし民族や文化の間に偏見や差別が存在するときには多くの困難な問題を抱えることになる。社会構造的にも、ethnic stratification system (vertical mosaic) ということがいわれている。すなわち、民族集団ごとに社会階層上にランキングを形成するというのである。たとえば、英系カナダでは宗教や民族による威信ランキング(点数83-25)で、英系カナダ人が最高の83に対して、仏系60、ドイツ系49、ユダヤ系46、ロシア系36、そして日系36、中国系33、カナダ・インディアン28、黒人25などという数値が示されているのである。(Hagedorn, R. ed., 1986 *Sociology* Holt, R&W: 258-259) 実際、民族と社会階級とは緊密に関連することが多いが、それがまた地域とも結びつくところがカナダの特徴といえるかも知れない。

近代化、産業化の進展が、たとえば教育制度やマスコミの活動を通して普遍主義的な価値を普及

させる結果、社会がそれまでどちらかといえば排除してきた少数者集団を包摂(inclusion)して、そのため個別主義的なエスニック集団は力を失っていくという仮説があったが、世界中での経験がこれを反証しているようにみえる現在、カナダの〈実験〉は特に留意されてよいと思われる。

2) ケベック問題

「カナダ、特にケベックに興味を持って勉強しています」というと、「相変わらずケベックとは、新味がない」という人がある。しかし、ケベック問題こそがカナダ連邦国家のマグマであることは否定できない。現に、昨今の憲法改正の試みが1982年憲法を拒否しているケベックをカナダ連邦の〈正規の〉一員に復帰させる努力であると同時に、そのことをめぐってカナダ連邦制のあり方が大きく変わり始めているからである。すなわち大勢としては、ケベックの特殊性、すなわちケベック住民の80%を占めるフランス系が建国の2民族の一つであり、またケベックが「固有の社会」(distinct society) であることはほぼ認められているのだが、他方、すべての州は平等であり、従って、ケベックへの特殊な配慮からこの州に与えられる特権が、結局はすべての州に与えられなければならないことになり、カナダ連邦制がますます求心力を失ってゆく傾向が観察される。

ミーチレイク協定の失敗(1990年)の後、深い失望と挫折感にとらわれたケベックは、自らシャーロットタウン提案を拒否し(1992年)、その不満をバネにして「ケベック軍団」(Bloc Québécois)を連邦議会に送り(1993年総選挙)、1994年の州選挙では15年ぶりにケベック党を州の政権に返り咲かせた。そして、翌年1995年10月30日、パリゾー政権はケベックの独立を問う住民投票(レファレンダム)を敢行したのである。約500万の有権者の92%が投票したという事実は、ケベック住民のこの問題への関心の高さを示している。開票率99.8%の時点で) 50.6%対49.4% (465万中の5万。最終的な票差は2万7千) という僅差で独立派は敗北したが、それでも前回(1980年)の60%対40%と比べると成績は決して悪くはなかったのである。ケベック住民の82%が仏系であるが、彼らのうち約60%が「分離」を支持した。